

令和元年度岩手県健康いわて 21 プラン推進協議会会議録

日 時：令和元年 9 月 27 日（金）16 時 30 分～18 時

場 所：岩手県庁 12 階 特別会議室

出席者：23 名（委員 18 名、事務局 5 名）

傍聴人：0 名

1 開会

2 あいさつ（野原保健福祉部長）

- ・委員の皆様方におかれましては、御多用中のところ、令和になり初めての岩手県健康いわて 21 プラン推進協議会にご出席をいただき誠にありがとうございます。また、日頃より本県の健康づくりの推進にご支援、またご尽力いただいていることに関しまして、重ねて感謝申し上げます。
- ・健康いわて 21 プラン推進にあたり、一昨年の中間評価において明らかになった課題を踏まえ昨年度から事業所に歩行数アップにチャレンジしていただく取り組みを行っている他、健康経営に積極的に取り組む事業所を認定する制度の創設、各医療保険者とも連携した特定健診等の受診率向上、そして生活習慣病重症化予防などに取り組んでいるところである。
- ・またご案内の通り、県では今年 3 月県政の今後の 10 年間の政策・方向性を示すマスタープラン、いわて県民計画 2019－2028 を策定し、「幸福」をキーワードに、県民一人一人がお互い支え合いながら幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取り組みを全県あげて進めているところである。
- ・健康いわて 21 プランは、健康増進法に定める県の健康増進計画であるとともに、この県民計画の領域計画に位置付けられるものであり、計画期間も県民計画の第 1 期アクションプランと同じく、2022 年までとしているものである。
- ・幸福に最も関連しているものは健康であり、県民計画の推進に当たっては、この健康いわて 21 プランの推進が極めて重要な取り組みであると考えている。今後はこの新たな県民計画の方向性を踏まえ、健康いわて 21 プランに掲げる各種施策を展開して参るので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いしたい。
- ・本日は、プランの最終評価に必要な生活習慣実態調査について、これは来年度実施する大規模調査で、国民健康・栄養調査に合わせて実施したいと考えており、本日はその方針や調査内容についてご意見を伺いたい。また、現在取り組みを進めている今年度の重点施策や新たな受動喫煙防止対策についても情報提供、報告をさせていただき、ご意見をいただきたいと考えている。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えている。

3 委員紹介

4 協議事項（滝田会長が設置要綱に基づき会議の議長を務めた）

(1) 健康いわて21プラン（第2次）最終評価に向けた方針について

（資料 No. 1-1、1-2、資料 No2-1、2-2 により説明 海上担当課長）

（鈴木委員）

- ・資料2-1の3ページの上の方に、目標値を数値以下に抑制する場合について、この目標値が目標値以上とか目標値の下とか、例えば具体的に想定されるものはどのようなものがどういう数値で、例なのかということ教えていただきたい。

（事務局 海上担当課長）

- ・糖尿病の有病者の増加の抑制という基準、目標があり、27年が6.97万人という数字だが、それよりも減らすという目標になっている。これを最新の数値で数値が上がっているのか下がっているのかを判断する時にこれを使うと考えている。

（鈴木委員）

- ・それに関連して最初の数値で目標を設定している場合はABCDで4つの評価になっているが、その後の減少の表現とか、目標値をある数値に抑制する場合ADだけにしているというのは基本的にどういう考え方なのか。

（事務局 海上担当課長）

- ・中間評価の時に結構議論されており、意外とこの中間の評価の仕方が難しく、端的に良くなっているか悪くなっているかという評価でその時の委員の方々にはご了解いただいている。評価の仕方については数字が出たときに改めて皆様にお示し、ご意見いただきながら報告をさせていただきたい。

(2) 健康いわて21プラン（第2次）の取組の推進について

（資料3-1、3-2により説明 海上担当課長）

（滝田会長）

- ・資料3-1の5ページ(3)の①ビッグデータ利活用環境の整備は、どの程度県では進んでいるのか。

（事務局 海上担当課長）

- ・ビックデータの関係は、今システムを組むために県内のICSに委託をかけている。現在、データを出してもらおう方々、協会けんぽ或いは共済、国保連等医療保険者に説明に上がっている状況。また、個人とわからないような仕組みを、CS或いは他県の先進事例とかを参考にしながら進めている。
- ・ハッシュ化という氏名と生年月日、住所等を数値に変換する仕組みが出来始めている。その

仕組みでもって医療、健康と介護を連結しながら、岩手県の健康状態を見ていきたいと考えている。

(滝田会長)

- ・ハッシュ化というのも個人データと同じ意味合いになるのか。

(事務局 海上担当課長)

- ・その人の特定はできないと言われている。学者に言わせれば、戻すことはできなくはないという言い方をされる。それは何かというと普通の一般の技術者であれば戻すことはできない(個人を特定できない)レベルであるということであり、ハッシュ化をするということは一方通行のデータ変換であることを皆さんに今説明しているところである。
- ・ある地域で1人、2人と少数の傷病の方がいるとその方だとわかってしまうので、データの使い方についてある程度のルールを決めて運用をしていかないといけない。そこは今検討の一つになっている。

(滝田会長)

委員の皆様が所属する関係機関・団体として健康づくりを推進するための取り組み状況について情報交換をしたいと思う。資料4を参考に、平成30年度特に力を入れた取り組みや、今年度新たに事業を検討している強化する予定の事業など、4団体の委員の方から発表していただく。全国健康保険協会岩手支部の樋澤委員と、岩手県予防医学協会の岩城委員、岩手県薬剤師会の熊谷委員、岩手県栄養士会の金谷委員から順次に発表していただきたい。

(樋澤委員)

- ・資料4の5ページ。93から102番。特段、新たなものというものはないが、その力の入れ加減というのは年度年度で変わっている。最近はいろいろな研究成果から歯科と糖尿病の関係が言われており、歯科健診は従来以上に力を入れていきたいと思っている。
- ・94番の岩手経営健康宣言事業は現在950で徐々に増えている。県へのお願いとして、宣言をして表彰していただくのも非常に光栄なことであるが、メリットがなかなか感じられないという企業があり、例えば岩手県の運動施設の利用料を若干割り引いていただくとか、少しのことで結構なのでそういったメリット、今の加入事業所のメリットは金融機関の借入金利の軽減だけということなので、県の方でもご検討いただきたい。
- ・健康づくりセミナー、健康川柳コンクール、当初は200とかの応募数が300とか、川柳の中身も非常に笑えるものが増えてきて、浸透しているのではないかと思う。
- ・生活習慣病予防、特定健診・特定保健指導について着実に進めていく。岩手県は地理的に広いので、健診機関が大幅に不足している。特に沿岸地区。沿岸は県立病院等に申し込んでも定員や忙しいということでちょっと渋られるというケースもある。予防医学協会からは車を出していただく等積極的に協力をいただいている。健診機関を増加させるということで私も盛岡市内でお願いに歩いているが、工夫がこれから必要になってくるのではないかと思う。

(岩城委員)

- ・5番、健康フェスタ、来年50周年を迎えるということで、50周年に向けてカウントダウンのような形で健康フェスタを続けてきた。昨年は2,000人以上の方々にご来場いただいている。たくさんの体験、健康づくりに関する体験コーナーでお子さんから高齢者までのお客さんに体験をしていただいている。美容的なものが非常に好評で、すぐに整理券が完売するという事態になっている。お子さん方には児童クラブの体育館があり、そこにキッズコーナーを作ってゆっくり遊んでいただく、運動していただくというコーナーも設けている。
- ・8番、ココロカラダヨロコブ講座ということで運動、栄養、メンタルといった教室を開催している。これは非常に少人数で行うもので、中身が濃い。
- ・15番、ヘルシーレストラン食楽良ですが、ここで作られた健康食をお昼に食べていただく。あとは、ドクターの講話、保健師・管理栄養士等の健康教育を入れる。運動では、健康運動指導士が健康づくりのための運動等々を行っている。
- ・13番、事業所健診で高血圧、血圧に問題のある方々に指導箋を発行している。昨年の発行数は1,344名。多くが病院を受診し治療開始は4割増加した。医療費が増えることになるかもしれないが、これが何年かして脳卒中の予防に繋がっていくのではないかなと思っている。
- ・14番、フレイルに力を入れていこうと考えており、市町村に今年度無料で1回その教室を開かせていただけませんかとお話をさせていただいているが、もう10月になるがまだ7市町村さんぐらいからしか要望がない。
- ・16番、健康げんき倶楽部。ジム等のほかプールを使った、あと血液検査や体脂肪検査、心理検査といったもので健康的な体づくりを目指していくというもの。小さな施設なので、会員数が大体300強という形で年間に477名に利用していただいている。民間のジムと違い、運動指導士がその方にあった運動メニューを作り、管理栄養士がプラス栄養指導を行って食事と運動から生活習慣病予防を行っていこうという考えで作られた施設。
- ・17番、施設見学は新しい施設ができてから大体全市町村の食生活改善推進員さんとか保健推進委員さんの方々を中心にお越しいただいている。今後は老人クラブさんとか高齢者の団体さんに少し施設見学を働きかけて、そしてクラブでの食事と合わせて健康について考えていただければというふうに考えている。

(熊谷委員)

- ・資料4の3ページ。特段新しいものはなく従来通りのものになるが、43番の県民健康講座は岩手県からの委託事業。全県を対象にして、県民の方々に薬の正しい使い方等をしていただくというもの。基本的には主催者さんの会場の近くの薬剤師を派遣し講演している。最近の傾向としては、多分市町村の予算との関係もあるのかもしれないが、これまでは市町村の予算でやっていたが予算がつかなくなったのでこちらに申し込んでいるというところがあるのではないかなと思っている。各市町村の健康担当の窓口には毎年ご案内、それから老人クラブ等々にご案内して実施している。
- ・44番薬物乱用防止啓発事業、こちらはご承知の通り学校で行うものがメイン。学校の養教さんとの連携によって学校薬剤師が基本的に講演している。公立学校は学校薬剤師がしっかり

いるので担当者が行けるが、私立の学校は学校薬剤師がいないところがあるので、そういう所は派遣して対応している。当会では小中高にあわせて資料作っており、評判がいいのか警察の方が講演する際もうちの資料を使うということをしていただいている。

- ・自殺対策事業が2本ある。一つは薬剤師ゲートキーパーを養成する事業。24年度からやっている。自殺に関する、自殺だけではなく自殺に繋がるような病気や、薬に関する研修を受けたものを認定している。薬局等で眠れない等相談があった時には専門機関を紹介する役割を担ってもらうように助成事業を行っている。「あなたもゲートキーパー」は各地域で行われるイベント等で、当会で作っているリーフレット、クリアファイル、ポストカード等を渡しながら啓発に努める事業である。
- ・禁煙サポート研修会、一時期ちょっと力を入れて10地区地域薬剤師会単位で研修会を行っていたが、禁煙に関する研修の内容がなかなか見つけられないところもありここ数年は2、3回というところで留まっている。
- ・アンチ・ドーピングについては、多分全国的にも岩手は進んでいる地域。薬剤師会の活動としては進んでいる。国体があり全国的に取り組んだところがあって意識は高いかと思う。選手、指導者等のドーピングに関する追求はまだまだというところは伺え、若年層から継続的な啓発が必要ということで、学校で児童・生徒にお話しすることがいいだろうと思うが、なかなか学校ではこれだけのために時間取れないということで、学校保健会等で紹介できるようなショート版のパワーポイント作っている。他に啓発用にオリジナルリーフレットを作り活動している。先日の日曜日、釜石で歯科医師会と一緒に、当会はドーピングの啓発、歯科医師会はマウスガードを啓発するというのでファンゾーンのある所でブースを開き来場者にアピールした。やはりドーピングだけではなく、他の団体と一緒にやることで連携したブース活動ができれば非常にいいと感じた。

(金谷委員)

- ・同じく3ページの、52から56まで。52番いわて栄養月刊は、毎年10月に各地区で栄養食生活支援指導の普及啓発や個別栄養相談などを行っている。最近は保健所、市町村と一緒に脳卒中予防のキャンペーンも行っている。それに合わせて減塩意識調査を実施し結果はそろそろまとまったと思いますので、いつか発表できればと思っている。
- ・53番超高齢社会を見据えた糖尿病予防事業、これは糖尿病予防の知識合併症の予防のための適正な食生活の定着のためということで、医師の講演を聞いたり、実際食べて運動をしてという一連の講座を平成29年度、今年度で最後だが、全部ほぼ全部の市町村で行った。
- ・54番栄養ケアステーション、これは栄養士の派遣などの業務。
- ・55番少子化対策事業、昨年度の末から岩手県医師会の少子化対策委員会と一緒にやっている。医師会のホームページから主に妊産婦に向けて健康づくりに関する情報提供を行うというもので、ホームページにアップされているので、詳しいことは滝田会長に聞いていただきたい
- ・56番被災者の参画による心の復興事業、これは被災地の市町村などの協力をいただきながら、栄養教室をしたり個別巡回指導などを行っている。その他の年に1回盛岡で中央シンポジウムということで、毎回で100名くらいの方に参加していただいている。沿岸市町村の健康講

座の参加者からのアンケートでは、高齢者が多いので引きこもり予防対策にもなっていると思うが、今後の食生活に役立てたいとか楽しかったという意見が多い。

- ・今年度新たな取り組みとして、高齢者の低栄養予防に力を入れており、今年度から地域包括ケア推進研修会ということで保健所の協力をいただきながら栄養士の人材育成を図っている。その他の施設や病院などで、刻み食やとろみ食の形態や名称がそれぞれですので、県下で統一できたらということで、いろいろな職域の職種の方に声をかけて今年度からプロジェクトチームを立ち上げている。

(滝田会長)

- ・私の方から一つ。現在岩手県医師会で少子化委員会を立ち上げ、少子化は結局産まれた時からというよりもお腹の中にいる時から減塩なり栄養なりというものを考えることやお母さんの心も大事であることから、妊婦さんの栄養に関して非常にわかりやすく、栄養士会の方々と連携を密に保ってホームページを立ち上げた。今ポスターを少子化委員会の医療機関に出し、9月1日から一斉にということだったが、間に合わず9月半ばからお出しし、今アクセスが440ぐらい、QRコードで読み取ってアクセスしていただき1日当たり大体30件ぐらいのアクセスがあると聞いている。やはり次世代の子供を大事にしていかなければいけないということが一番大事なことかと思う。
- ・この間文科省がやった学力テストだが、アンケート調査も同時に行っている。10年ぐらいやっているが、岩手県の子どもは自己肯定感が非常に低いという統計が出たということで、僕ちょっと調べさせていただいた。63問、小学生、その中で自己肯定感に関する質問は2題くらいしかない。それで岩手県の子供たちは自己肯定感が低いというのはどうかと考えた。あまりプライドとか自己肯定感とか同じだと思わず、自分はいくまでも人間の尊厳という形で自分を認める、その心だと思っていただきたい。もう一つびっくりしたのは、歯磨き。岩手県は非常に徹底化されている。思春期講話で中学校2校、高校2校に行っているが、教育委員会、或いは首長さんの許可を得て自分で考えたアンケート調査をやっていた。毎日歯磨きしますかという自己管理能力だが、中学生でも高校生でもいつもやってるに丸が付く。ここにカギがあるのかなと思っている。何のカギかということ、諦めず、成人でも小児でもですが諦めないで継続していくこと、やはり継続は力かなということがアンケート調査でわかったので、一応皆様にお知らせするというお話した。

(3) その他

(海上担当課長)

- ・次回の開催案内について、来年1月か2月くらいと考えている。

5 その他

(資料5により説明 赤岩主任主査)

6 閉会